

赤こんりポート

馬場利男リポーター



田植え体験学習

金田小学校の5年生159人が、総合的な学習の時間と、社会科の「わたしたちの食生活を支える食料生産」の学習の一環として、5月20日に田植え体験をしました。

体験では、どろどろの田んぼの中にちゅうちょなく入った子もいれば、なかなか踏ん切りがつかず、ようやく入った子もいました。全員が1列に並び、ロープについた目印に、苗を3～5本ずつ植えていきます。泥だらけになりましたが、子どもたちは楽しそうで、追加の苗をもらい、たくさん植えていました。この田植え体験は、10年間協力を続けている金剛寺町の村田正文さんや、グリーン近江農業協同組合の職員、田んぼの地主さんなどの指導・協力のもと実施されています。子どもたちは、秋の収穫を楽しみにしながら、今後の学習を深めていくことでしょう。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



人と関わる楽しさを 駄菓子屋オリキキの挑戦

八幡町でかつて「オリキ」と親しまれていた『オリタ菓子店』。20年程前の閉店から空き家の状態が続いていましたが、昨年8月から駄菓子屋OliKiKi（オリキキ）として再オープンしました。

人との関わりが希薄になってきている昨今に「誰かと関わる楽しさ」の実感できる居場所をつくりたいという想いから、店の奥には自習やおしゃべり、読書などができるフリースペースも。実際、異なる年齢のお子さん同士で宿題の教え合いをしたり、同級生が集まりいつの間にか同窓会状態になったりするなど、昔懐かしい駄菓子と温かい空間が、たくさんの交流を生み出す居場所となっています。

赤こんりポート

山田恵美リポーター



森林環境学習「やまのこ」in 沖島

近江八幡では、小学校4年生の森林環境学習として「やまのこ」を沖島で実施しています。5月24日、安土小学校の2クラスが堀切港と長命寺港から沖島へ出発。沖島に到着すると、生徒たちは登山中の注意事項を聞いた後、専任指導員、やまのこサポーターなどと快晴の空の下、ケンケン山へ。森林の中を歩きながら、木や草花のはなしを聞いたり、軍手越しに葉っぱを触ってみたり、鳥の鳴き声に耳を澄ませてみたりしていました。

沖島小学校で沖島や沖島のくらしの話を聞き、昼食後は丸太切り。安全に気を配りながら、みんなで力を合わせて切っていました。五感で感じ取り、学び、楽しむ、そんな体験だったのではないかと思います。5年生のびわ湖フローティングスクールでは、学習船「うみのこ」から島や山、森林を見てたくさんのものを学んでほしいです。

赤こんりポート

東知樹リポーター



素敵なキノコの物語

5月31日、そのきのこさん主催の作品展「Be カラフル - 色いっぱいの日を -」へ取材に行ってきました。中村町のギャラリー「すみれラボ」で行われているこの作品展は、主にベニテングダケをモデルとしたキノコ作品をかわいらしく展示したもので、流れている音楽も雰囲気にあっていて、物語の世界に迷い込んだような体験ができました。そのきのこさんは、キノコの可愛いフォルムに魅了され、1年間で約300個もの作品を作り上げているそうです。「このような作品展を開いて、もっとキノコのことをたくさんの人に好きになってほしい」と話していました。

5月31日～6月9日

初夏の訪れに鮮やかな花
第24回むしゃりんどう展示会

武佐地域で発見されたのが花の名前の由来といわれ、「近江八幡市の初夏の花」として選定されている「むしゃりんどう」。地元でむしゃりんどうの栽培活動に取り組む「むしゃりんどう保存会」によって、大切に育てられた400鉢余りが、武佐コミュニティセンターをメイン会場に学区内の7か所で展示されました。

6月4日には、武佐こども園の5歳児24人と4歳児24人が武佐コミュニティセンターを訪れ、4月に同保存会のメンバーとともにプランターに植えたものや棚に並ぶ花を見つけると、「たくさん咲いてて、きれい」などと声を上げながら棚に駆け寄って、花を眺めたり匂いをかいだりしていました。

6月8日



地域と共に歩み続けて10周年

平成26年に竣工され10周年を迎えた老蘇コミュニティセンターで「ふれあいコンサート & 老蘇コミセン10周年を祝っちゃおう！」が老蘇まちづくり協議会主催で開かれ、多くの親子連れが訪れました。

人権コンサートや能の話、まち協バンドの演奏などが行われたほか、「ジャンボ老蘇カルタ」や「コミセンそうだったのかクイズ！」といったみんなが楽しめる催しで、会場はにぎわっていました。能の話では、能楽師観世流シテ方準職分の吉田篤史さんから、能の歴史や仕舞、謡の楽しみ方などが話され、最後は観客とともに「高砂」の謡を披露しました。

6月7日

持続可能な観光まちづくりに向け
新しい地域おこし協力隊員が着任

平成31年に渡豪し、シドニーで在留日本人向けの地域情報誌の編集者として勤務していた、茨城県出身の石神恵美子さん。コロナ禍によって帰国後、令和3年からの2年間、佐賀県で地域おこし協力隊として移住者の生活サポートに従事していました。

本市ではこれまでの経験を生かし、市や観光関係団体と連携しながら地域情報を発信するコミュニティづくりや「食・農・工芸・リトリート」をキーワードに、グリーンツーリズムの仕組みづくりに向けた調査や企画立案などに取り組めます。石神さんは「近江八幡をもっと知り、市外の人に近江八幡の魅力が伝わるような情報発信コミュニティを作っていきたい」と抱負を話していました。

5月19日



異国の料理で笑顔の交流

料理を通してミャンマー文化に興味を持ってもらおうと、県立男女共同参画センターで「多文化まるごと講座」ミャンマー料理教室が開催され、8組15人が参加しました。

参加者たちは、4つの調理台に分かれ、ミャンマー出身の講師・ミミトゥンさんの指導のもと、タケノコや豚肉などをスープ仕立てにした郷土料理「ミツワターチェツ」とココナッツゼリーの「オンノチャウチョウ」の2品を調理。保護者が見守るなか、子どもたちは食材をカットしたり、お互いの料理を味見しながら味を調べたりして、料理作りは順調に進み、香ばしい匂いととも完成。参加者たちはおいしそうに食べながら、交流を楽しんでいました。